

新名神大津～城陽間の開業延期

西日本高速道路は、現在工事中の新名神高速道路の大津JCT～城陽JCTで計画中の2024年の開業が難しくなると発表した。数か所で想定外の難工事が起こり大幅な地盤改良工事が必要となったため。開通時期は未定という。

＜解説＞大津JCTと京奈和自動車道城陽JCTが結ばれる工事は、全長25キロ。2015年8月に着工し、2024年の開業を



指していた。開通すれば、名神高速道路の渋滞解消や京都府南部の企業誘致が期待されていた。地域活性化への貢献期待度も大きく、投資効果は大きいと考えられていた。当初の開通は2023年だったが、想定外の湧き水が発生し、そもそも1年遅れていた。今回の難工事が発生したのは3か所。大津市の信楽川橋、京都府

宇治田原町の宇治田原IC、城陽スマートICの3か所。信楽川橋は橋脚の基礎に硬い岩盤が見つかり、破碎工事に時間がかかる。宇治田原ICでは当初より多量の盛り土が必要となることが判明した。城陽ICでは、地盤の軟弱な箇所が発見され、広範囲で地盤の改良工事が必要となった。今後の工事の進捗次第だが、開通時期は未定という。この道路の開通は、地元の期待が非常に大きい。城陽市は市街地や国道307号線からのアクセス道路を整備中で、近隣に



城陽JCT工事



は大型商業施設も計画されている。特に、この道路周辺では物流関係の企業の設備投資が活発で、この道路の開通でさらに一層の企業誘致も期待がかかる。京都府南部の一大ロジスティック基地となる構想があり、この高速道路の開通はその大きなインフラとなる。それだけに期待が大きく、不可避のアクシデントではあるが、それだけ地元の期待は大きかった。市長も知事も、非常に期待が大きかっただけに、残念とのコメントを発表した。別に

工事中の八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC間の工事予定には変更はないという。京都府南部は、多くの製造業の事業所が立地し、滋賀県にも製造業の事業所が多い。これらの製造業の事業所間を結び、物流の一大基地を目指す城陽地区にとっては、この開業延期は多くの事業計画の変更を余儀なくされる事態だ。原因が難工事という代物なので、如何ともし難いがいずれにしても工事の早期完成を期待するしかない。

